

使徒の働き5章1-11節 「教会を聖める主」

1A 偽善の罪 1-2

2A 聖霊への欺き 3-6

3A 妻の共謀 7-10

4A 教会全体の恐れ 11

本文

使徒の働き5章を開いてください。私たちの聖書通読の学びは、使徒 4 章まで来ていましたが、今日は 5 章を一節ずつ学びます。午前礼拝で 1 節から 11 節、午後礼拝で 12 節以降を見ていきます。私たちは、聖霊に満たされたペテロとヨハネの大胆さと、彼らが捕らえられ、裁判を受けたのを聞いて、天の神に祈った者たちが、聖霊に満たされた、ますます大胆に御言葉を宣べ伝えるようになったところを見ました。

そして、教会は心と意思を一つにしていました。誰も自分の所有のものを自分のものとして主張せず、それを売って代金を使徒たちの所に持ってきて、使徒たちのところに置きました。それを、人々に必要に応じて分け与えたので、乏しい人が一人もいなかったとあります。私たちが実際に、すべてのものを売り払って、それを教会の口座に入れるという事はしませんが、けれども、自分のものを自分のものとして主張せず、仲間に分け与えるという愛は、イエス様が命じられたことであることを知るべきです。使徒の働きの特徴は、聖霊に満たされることの他に、心と意思を一つにして祈ること、互いに分かち合うこと、そして仲間がいることです。そして、後にパウロをエルサレムの教会に紹介するバルナバも、自分の所有していた畑を売って、その代金を持って、使徒たちの足元に置きました。

1A 偽善の罪 1-2

¹ ところが、アナニアという人は、妻のサツピラとともに土地を売り、² 妻も承知のうえで、代金の一部を自分のために取っておき、一部だけを持って来て、使徒たちの足もとに置いた。

「ところが」という言葉から始まるこの事件は、聖霊の導きに従う教会に突如として現れた妨害と言ってよいでしょう。今、4 章について話しましたように、ペテロとヨハネが捕らえられた後で、仲間にそのすべてを報告したら、彼らは一同に祈り、その結果、聖霊に満たされて、ますます大胆に神のことばを語り始めました。外からの反対は、しばしば、このような形で福音を前進させます。それは、外からの反対や困難は、祈りの中で神のみこころに従わなければいけないという思いを与え、ますます聖められ、神のものとしていくからです。けれども、教会にとって大きな脅威は、内側からのものです。教会にいる者たちが、世におけることと変わらないことをしているのに、きちんとし

たクリスチャンであるかのようにふるまう時に、教会に世が入ってきってしまうのです。つまり、主の御霊による聖さが汚されてしまうのです。

アナニアとサツピラが行ったことは、あたかも自分たちは教会に自分ものものを献げたかのように見せて、実は自分のものを一部残しておくという偽りを行いました。これを「偽善」と言いますね。ギリシア語「フポクリシス ὑπόκρισις」は、「演技」という元々の意味があり、仮面をかぶって、人の前では違う人物のように見せかけるのですが、実を伴っていないことを指しています。

聖霊が力強く働かれている時は、大きな恵みがありますが、同時に大きな力も働いています。「4:33 使徒たちは、主イエスの復活を大きな力を持って証しし、大きな恵みが彼ら全員の上にあった。」そこで主は、ご自分の教会を守るために、教会全体が汚されることを防ぐため、その汚れになっているものを取り除く、聖めの働きを行われます。

旧約聖書では、神の民の間で起こった大きな出来事は、アカン的事件です。エリコの町を、周囲を回り、ときを声を上げて、角笛を吹き鳴らしたら、なんと崩れ落ちました。それで、そこにいる人すべてを殺し、中にある金銀や鉄のものは、主の家に献げるものなので、聖別しなければいけないとされました。ところが、アカンがその一部を自分のものにしました。すると、次の攻略する町アイで、イスラエル軍は大敗してしまうのです。その一部の罪が、軍全体に悪影響を及ぼしました。自分の天幕の中に、金の延べ棒や高価な服などが出てきて、それでアカンをみなで石で打ち殺した。それから再びアイの攻略をしましたが、主が指示されたとおりに動いたので、無事に勝利することができました。

アナニアという男が、代金の一部を残していましたが、ここでサツピラという名の妻が承知していたとして、彼女も強く関与していたことが分かります。アナニアの意味は「神は与えたもう」で、サツピラの意味は「美しい」なのですが、実に悲しいほどに、美しくない話ですし、神が与えるのではなく、神から命を取られるという話なのです。

2A 聖霊への欺き 3-6

³すると、ペテロは言った。「アナニア。なぜあなたはサタンに心を奪われて聖霊を欺き、地所の代金の一部を自分のために取っておいたのか。⁴ 売らないでおけば、あなたのものであり、売った後でも、あなたの自由になったではないか。どうして、このようなことを企んだのか。あなたは人を欺いたのではなく、神を欺いたのだ。」

しばしばいわれることは、聖霊が力強く働かれているところで、サタンが偽りをもって妨害を持ってくるということです。ペテロは、アナニアのした、ちょっとした嘘が、明確にサタンにそそのかされたことなのだと宣言しています。多くの人が、自分はちょっとこれだけは隠しておこう、嘘をつこうとし

ていますが、それこそが、蛇がエバに対してそそのかして、嘘をつき、その嘘を鵜呑みにした彼女によって、その実を取って食べたアダムが罪を犯したのです。「ヨハ 8:44 悪魔は、偽りを言うとき、自分の本性から話します。なぜなら彼は偽り者、また偽りの父だからです。」

そしてペテロは、「聖霊を欺」いたと言っています。聖霊によって麗しい、すべてを分かち合う兄弟愛が実現していました。これは人間には決してできないことです。けれども、あたかも聖霊の働きであるかのように、自分の仕業によって演じているのであれば、それは聖霊を欺いていることになるのです。聖霊の働きだと偽って、自分のしていることを隠しているのです。しかし、主は心の中の謀を明らかにされる方です。「I コリ 4:5 主は、闇に隠れたことも明るみに出し、心の中のはかりごととも明らかにされます。」

ここで大事なのは、アナニアが代金の一部を取っておいたことが咎められているのではないことです。欺いたことが咎められているのです。「売らないでおけば、あなたのものであり、売った後でも、あなたの自由になったではないか。」と言っています。第一に、売らないでいることは、全く咎められていません。第二に、売った後でも全く自由にすることができます。そして付け加えるならば、第三に、すべての代金を使徒のところに持ってきて、自分に必要があればそこから自分のことのために要求すればよいのです。彼の行ったことは、仲間に対する裏切り行為です。真実ではないこと、これが咎められているのです。

教会は、キリストが私たちが愛されたように、互いに愛し合う仲間です。ですから、すべてを献げるといっても、それは愛から出てくるものであり、強制ではありません。自発的なものです。しかし、キリストが愛されたその強烈な愛を知った者は、キリストのゆえにすべてを捨ててでも従いたいと願うのです。その無私の愛によって、自分の財産を献げます。このことをペテロは強調しています。

そして、「あなたは人を欺いたのではなく、神を欺いたのだ。」と言っています。人は他の人に自分のことを隠し、そして欺きます。けれども、聖霊が働かれているということは、それは人を欺いても、神を欺いていることになっていることに気づかないといけません。聖霊は神ご自身なのです。私たちは互いに交わりをしますが、それは単なる人の交流や付き合いではなく、神との交わりでもあります。ですから、自分の闇も、隠してきたものも、明らかにされてきます。その時に、イエス様に向かい、へりくだって、罪の告白をして、清めを受けるというのが、真実な交わりです。人によく見られるように動いて、偽りの生活をしていても、必ず明らかにされ、交わりに留まることができなくなってしまう。闇と光は同居することはできないからです。

⁵ このことばを聞くと、アナニアは倒れて息が絶えた。これを聞いたすべての人たちに、大きな恐れが生じた。⁶ 若者たちは立ち上がって彼のからだを包み、運び出して葬った。

驚くべきことに、アナニアは倒れて死んでしまいました。速やかに若者が来て、彼を運び出して葬っていますが、教会においてこの罪を主が取り除かれていることをよく示しています。パウロはコリントにある教会の人たちに、「Ⅰコリ 5:13 外部の人たちは神がおさばきになります。『あなたがたの中からその悪い者を取り除きなさい。』」と言いました。そして大事なのは、「これを聞いたすべての人たちに、大きな恐れが生じた。」ということです。この恐れは健全な恐れです。大きな力が働いているところには、健全な神の恐れがあります。「Ⅰペテ 1:17 また、人をそれぞれのわざにしたがって公平にさばかれる方を父と呼んでいるのなら、この世に寄留している時を、恐れつつ過ごしなさい。」

ここで、「なぜ、ちょっと教会の人たちによく見られたいと思って行うことが、殺されるという厳しい処置があるのか？」と思う人がいるかもしれません。けれども、私たちはイエスを主として信じています。イエスご自身が、見せかけの敬虔、また偽善についてどれほど厳しく対処されたかを思い出せば分かるかと思います。偽善とは、再び言いますと、「この世と変わらないことをしているのに、敬虔を装うこと。人によく見られようとして、偽ること。」と言えます。主は厳しく言われました。「ルカ 6:26 人々がみな、あなたがたをほめるとき、あなたがたは哀れです。彼らの先祖たちも、偽預言者たちに同じことをしたのです。」人に良く思われることを求めるのは、哀れだと言われています。「ヨハ 15:19a もしあなたがたがこの世のものであったら、世は自分のものを愛したでしょう。しかし、あなたがたは世のものではありません。」そして、人に取り入ろうとしている教師たちを偽教師と断罪し、パウロはこう言いました。「ガラ 1:10 今、私は人々に取り入ろうとしているのでしょうか。神に取り入ろうとしているのでしょうか。あるいは、人々を喜ばせようと努めているのでしょうか。もし今なお人々を喜ばせようとしているのなら、私はキリストのしもべではありません。」そして、「主よ、主よ」と言って、主の名によっていろいろな大きなことをしていたとしても、不法を行っている者として、「わたし離れて行け(マタ 7:23)」とまで言われているのです。

私たちは、悪いことをしている者は罰せられ、良いことをしているならば報われるという考えがあります。それは正しいのですが、人が基準となっている場合が多いのです。人によく思われていれば、それでよい。人に悪く思われたら、それは大変なことだ。だから隠そうとします。しかし、イエス様は真逆のことを言われました。「マタ 21:28-32 ところで、あなたがたはどう思いますか。ある人に息子が二人いた。その人は兄のところに来て、『子よ、今日、ぶどう園に行っておいで』と言った。29 兄は『行きたくありません』と答えたが、後になって思い直し、出かけて行った。30 その人は弟のところに来て、同じように言った。弟は『行きます、お父さん』と答えたが、行かなかった。31 二人のうちのどちらが父の願ったとおりにしたのでしょうか。」彼らは言った。「兄です。」イエスは彼らに言われた。「まことに、あなたがたに言います。取税人たちや遊女たちが、あなたがたより先に神の国に入ります。32 なぜなら、ヨハネがあなたがたのところに来て義の道を示したのに、あなたがたは信じず、取税人たちや遊女たちは信じたからです。あなたがたはそれを見ても、後で思い直して信じることをしませんでした。」

主は、姦淫の現場で捕らえられた女について、石を投げることも、罪に定めることをせず、「ヨハ 8:11 行きなさい。これからは、決して罪を犯してはなりません。」と言われました。けれども、パリサイ人や律法学者に対しては、「わざわざ、偽善の律法学者、パリサイ人。」と呼んで憚ることをせず、「マタ 23:33 蛇よ、まむしの子孫よ。おまえたちは、ゲヘナの刑罰をどうして逃れることができるだろうか。」と言われました。ですから、教会にとって、罪を犯して悔い改めることのほうが、偽って良く見せることよりも、はるかに優れているのです。

3A 妻の共謀 7-10

⁷さて、三時間ほどたって、アナニアの妻がこの出来事を知らずに入って来た。⁸ペテロは彼女に言った。「あなたがたは地所をこの値段で売ったのか。私に言いなさい。」彼女は「はい、その値段です」と言った。⁹そこでペテロは彼女に言った。「なぜあなたがたは、心を合わせて主の御霊を試みたのか。見なさい。あなたの夫を葬った人たちの足が戸口まで来ている。彼らがあなたを運び出すことになる。」

ペテロは、事実を確認するようにしてサツピラに尋ねています。これは公平性を保つためです。夫がそのような罪を犯したからといって、自動的に妻が罪を犯したというはできません。ですから、その疑いはあったでしょうが、彼女に「あなたがたは地所をこの値段で売ったのか。私に言いなさい。」と尋ねているのです。裁かれる時は、各々が裁かれます。けれども、残念なことに、「はい、その値段です」と尋ねています。

さらに残念なのは、「心を合わせて主の御霊を試みたのか」と言っていることです。これまで、心を合わせて祈ることはありました。心を合わせて、互いのものを分かち合うことはありました。けれども、心を合わせて主の御霊を試みるとは、本当に残念です。心を合わせることが、必ずしも正しいことではなく、まさに主を試みることもあるのです。これは分派の罪です。コラとルベン族の仲間が、心を一つにしてモーセとアロンに逆らいました。すると、地面が割れて、生きたまま陰府に投げ落とされました。

先に夫を葬った若者たちの「足が戸口まで来ている。」というのは、主が今にでも裁くために臨まれるということです。ヤコブがこんなことを言っています。「5:9 兄弟たち。さばかれることがないように、互いに文句を言い合うのはやめなさい。見なさい。さばきを行う方が戸口のところに立っておられます。」

¹⁰すると、即座に彼女はペテロの足もとに倒れて、息絶えた。入って来た若者たちは、彼女が死んでいるのを見て運び出し、夫のそばに葬った。

ルカは、「ペテロの足もとに倒れて」と細かく表現していますが、足元にひれ伏すことは、当時、

相手に対する最大の敬意でした。彼らが聖霊を欺いたことによって、主ご自身が強いるようにして、ペテロの足元で倒れさせるようにされました。自ら主の御霊に従うのであれば、そこには大きな恵みがありますが、逆らうのであれば、結局、同じように従わなければいけないのですが、裁かれるためにそう強いられているのです。

4A 教会全体の恐れ 11

¹¹そして、教会全体と、このことを聞いたすべての人たちに、大きな恐れが生じた。

この出来事を通して、教会は難局を通り越しました。主が、悪を教会から取り除かれ、聖められたのです。午後礼拝でこの続きを学びますが、さらに大きなしるしと不思議が使徒たちによって行われ、皆が心を一つにして祈り、神を賛美しています。人々もどんどんイエス様を信じています。教会の成長とは、時に付け足すのではなく、取り除かれることもあります。しかし、それはさらに実を結ぶために刈り込みであるのです。ここでルカは、「教会全体」と言っていますが、アナニアとサツピラの事件が個別の事件ではなく、教会が振り返り、今後の戒めとして覚えられていく者となっていたのだと思います。

また、「このことを聞いたすべての人」とありますが、この中にはまだ信じていない人も含まれるかもしれません。このようなことが起こったら、つまずきになるのではないかと神に愛されているというよりも、裁かれるとってしまうのではないかとと思うかもしれませんが、その逆ですね。地の塩としての存在です。むしろ、世は一貫性を見ます。口で言っていることと、行いが一致しているのか？真実な愛なのか？そういったことを、私たち以上にある意味、見ていると思います。偽善こそがつまずきなのであり、それを摘み取った出来事は、人々に健全な恐れを抱かせたことでしょう。

同じようなことが、黙示録で、ティアティアの教会で起こっていましたが、イゼベルと呼ばれる女預言者が、主のしもべたちに偽りの教えで惑わし、淫らなことを行わせました。悔い改めの機会をイエス様は与えましたが、応答しませんでした。それでこう言われています。「2:22 見よ、わたしはこの女を病と床に投げ込む。…また、この女の子どもたちを死病で殺す。こうしてすべての教会は、わたしが人の思いと心を探る者であることを知る。わたしは、あなたがたの行いに応じて一人ひとりに報いる。」すべての教会が知り、主を恐れる出来事として覚えられます。一人一人が、自分の心と思いを探り、主から報いを受ける存在なのだということを知ります。この後で、ティアティアの教会には、勝利する者たちが出てきます。

教会は、このようにして神の恵みによって救われ、神の御霊によって聖められていく存在です。イエス様が招かれているように、悔い改め、罪の告白をしたい方はぜひ応答してください。一人で祈られてもいいですし、また私の所や他のクリスチャンの所に行って、祈ってもらってもいいです。